

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ 12月の報告数は6,509件（前月比5.4、前年同月比2.6）でした。今シーズンは流行の開始が早く、12月の患者数はここ3シーズンで最多となりました。乳児から高齢者まで年齢を問わず流行が広がっています。例年インフルエンザは1月から2月に流行のピークを迎えるため、引き続きインフルエンザ流行に対する監視が必要です。

小児科定点

（全体傾向）

12月の報告数は11,259件（前月比2.20、前年同月比1.81）でした。患者数が急に増加した主な理由はインフルエンザの流行開始と、感染性胃腸炎の患者数増加です。ほかにも咽頭結膜熱、A群溶連菌咽頭炎、水痘、伝染性紅斑が増加しました。一方、RSウイルス感染症、手足口病、ヘルパンギーナは減少しました。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 報告数は14件（前月比0.3、前年同月比0.1）でした。11月以降に患者数が減少するのは、過去2年も同様です。特に報告の多い地域はありませんでした。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数は191件（前月比1.4、前年同月比1.7）でした。10月以降増加傾向にあり、12月は昨年同月よりも多くなりました。年齢別では1歳にピークがあり、1～4歳で全体の7割（131/191）を占めました。菊池（13.60）、水俣（12.00）で多くなっています。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数は556件（前月比1.3、前年同月比1.2）で、10月以降患者数が増加し、ここ3年間では最多の患者数でした。4歳をピークに、3～6歳の患者が多くなっています。菊池（29.40）、宇城（21.00）から多く報告されました。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数は2,818件（前月比1.3、前年同月比1.2）で、10月以降患者数が増加し、ここ3年間では最多の患者数でした。4歳をピークに、全ての年齢層で患者が発生しています。有明（150.20）、山鹿（103.50）から多数の報告がありました。
5. 水痘 : 報告数は83件（前月比1.8、前年同月比0.8）で、前月より増加しています。5歳をピークに、4～8歳の患者が多くなっています。特に報告の多い地域はありませんでした。
6. 手足口病 : 報告数は349件（前月比0.9、前年同月比2.4）でした。前月より減少していますが、前年よりも多く、ここ3年間では最多の患者数です。年齢別では1歳をピークに、1～3歳で全体の7割強（259/349）を占めました。八代（17.75）、山鹿（17.50）からの報告が多くなっています。
7. 伝染性紅斑 : 報告数は377件（前月比1.1、前年同月比14.5）で、増加傾向が続いています。引き続き流行に対する監視が必要です。年齢別では6歳をピークに、幅広い年齢層で患者が報告されています。患者の多かった地域は菊池（19.20）、有明（15.80）でした。
8. 突発性発疹 : 報告数は127件（前月比0.9、前年同月比1.2）で、前月と大きな変動ありません。特に報告の多い地域はありませんでした。
9. ヘルパンギーナ : 報告数は57件（前月比0.7、前年同月比1.2）でした。7月以降は減少が続いています。天草（7.00）で患者が多くなっています。

10. 流行性耳下腺炎 : 報告数は9件(前月比0.8、前年同月比0.2)でした。前月よりも減少し、ここ3年間では最も患者数が少なくなっています。特に報告の多い地域はありませんでした。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告数1件(前月比一、前年同月一)
年齢40歳代、熊本からの報告です。
2. 流行性角結膜炎 : 件数46件(前月比0.9、前年比0.7)と減少しています。熊本43件、菊池3件の報告です。年齢別では30歳代にピークがありますが、乳幼児から高齢層まで広い範囲に発症しています。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 :
報告数50件(前月比1.2、前年同月比1.0)で、前月比は増加、前年同月比は2件減少しています。男女別は、男性に30件と多く見られました。年齢別では、男性は20~34歳に23件と多く、女性は15~39歳に見られています。地区別は、熊本が37件と圧倒的に多く、次いで御船4件、八代3件、菊池、有明に各2件、宇城、天草に各1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 :
報告数24件(前月比1.0、前年同月比1.0)で、前月比、前年同月比とも1件減少しています。男女別は、男性に14件と多く見られました。年齢別では、男性は20~70歳以上、女性も15~59歳と幅広く見られています。地区別は、熊本が17件と多く、次いで八代3件、菊池、有明に各2件でした。
3. 尖圭コンジローマ :
報告数は7件(前月比0.8、前年同月比0.8)で、前月比、前年同月比とも減少しています。男女別では、男性に5件と多く見られました。年齢別では、男性の25~44歳に、女性では20~24歳に見られています。地区別は、熊本が6件と多く、次いで御船1件でした。
4. 淋菌感染症 :
報告数は7件(前月比0.5、前年同月比0.6)で、前月比、前年同月比とも減少しています。男女別では、全て男性でした。年齢別では、男性で20~24歳に4件と多く見られています。地区別は、熊本5件と多く、次いで天草2件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 :
報告数22件(前月比1.2件、前年同月比1.0)です。70歳以上が14件と多くなっています。小児では1~4歳が1件、5~9歳が3件です。八代(5件、定点あたり5.0)、阿蘇(6件、定点あたり6.0)が多くなっています。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 :
報告数3件(前月比0.5、前年同月比0.5)でした。70歳以上が2件、小児は0歳が1件です。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症 :
報告数0件(前月比+0、前年同月比+0)でした。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎： 報告数0件（前月比 +0、前年同月比 +0）でした。
2. 無菌性髄膜炎： 報告数0件（前月-1、前年同月-1）でした。
3. マイコプラズマ肺炎： 報告数9件（前月比 1.3、前年同月比 4.5）でした。増加傾向です。1-4歳4件、5-9歳2件、10-14歳2件と小児に多く見られます。人吉（2件、定点あたり2.0）、熊本（6件、定点あたり1.2）が多くなっています。
4. クラミジア肺炎： 報告数0件（前月-1、前年同月+0）でした。
5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：
報告数0件（前月比 +0、前年同月比 +0）でした。

届け出対象感染症

| | | |
|-------|-----------------|-----|
| 1類感染症 | ： 報告はありませんでした。 | |
| 2類感染症 | ： 結核 | 18件 |
| 3類感染症 | ： 腸管出血性大腸菌感染症 | 2件 |
| 4類感染症 | ： A型肝炎 | 1件 |
| | E型肝炎 | 1件 |
| | つつがむし病 | 2件 |
| | レジオネラ症 | 1件 |
| 5類感染症 | ： アメーバ赤痢 | 1件 |
| | カルバペネム耐性腸内細菌感染症 | 2件 |
| | 侵襲性肺炎球菌感染症 | 3件 |
| | 水痘（入院例） | 2件 |
| | 破傷風 | 1件 |
| | 梅毒 | 6件 |
| | 百日咳 | 23件 |